

令和5年度

伊勢赤十字病院
歯科医師臨床研修プログラム

単独研修方式

伊勢赤十字病院
歯科口腔外科

伊勢赤十字病院 歯科医師臨床研修

[1]伊勢赤十字病院における歯科医師臨床研修の概要

(1) 名称 伊勢赤十字病院歯科医師臨床研修プログラム (以下プログラムと省略)

(2) プログラムの特色 伊勢赤十字病院にて2年コースにおける臨床研修を実施する。研修内容は口腔外科の標準的な治療の基礎を学びつつ、総合病院における歯科口腔外科という特性から、病院内の医科歯科連携あるいは地域の医療機関との連携による、安全かつ適切な歯科治療を患者に提供できるように、知識、態度および技能を習得する。また、麻酔科研修により全身管理も習得する。

(3) プログラムの目的 歯科医師としての人格形成を促進し、一般歯科治療や口腔外科小手術など幅広い臨床能力を習得する。

[2]令和5年度臨床歯科研修医要項

(1) 研修管理委員会の名称 伊勢赤十字病院研修管理委員会

(2) 定員および選考方法 1名 (公募：面接, 小論文) マッチング参加

(3) 施設の概要

単独型臨床研修施設 伊勢赤十字病院

所在地 三重県伊勢市船江一丁目471-2

臨床研修施設長 院長 楠田 司 (研修管理委員会委員長)

研修プログラム責任者 歯科口腔外科副部長 中村 真之介

事務部門の責任者 事務長

医療法上の許可病床数 一般634床（歯科4床）、感染症4床、精神9床

施設標榜科名 血液内科、感染症内科、肝臓内科、糖尿病・代謝内科、

呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、

神経内科、精神科、小児科、外科、乳腺外科、

整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、

呼吸器外科、心臓血管外科、産婦人科、泌尿器科、

皮膚科、眼科、頭頸部・耳鼻咽喉科、放射線診断科、

放射線治療科、麻酔科、腫瘍内科、歯科口腔外科、

緩和ケア内科、形成外科、病理診断科（31科）

（４）研修の実施要項

（ア）研修準備（令和5年3月末日）

マッチング（もしくは2次募集）で、当院での研修が決定した段階で詳細な打合わせを行う。国家試験合格後、最終的に採用決定となる。

（イ）オリエンテーション

- 1 伊勢赤十字病院新規採用職員のオリエンテーションに参加する。
- 2 歯科口腔外科で歯科医師としての第一歩を始めるのに必要な最低限の知識、規則などについて研修する。

（５）研修の評価と修了証の交付

(ア) 研修歯科医の評価と修了証の交付

2年終了時に、予め設定された研修目標、自己評価、指導歯科医の評価、研修内容を総合的に検討し、研修管理委員会で評価を行い、目標達成されたものに研修修了証を発行する。

(イ) 指導歯科医の評価

研修歯科医からの指導歯科医に対する評価を検討し、研修指導歯科医として適切でなかったと考えられる者には、指導歯科医講習会やワークショップへの参加を促し、再教育する。

(ウ) 研修プログラムの評価

研修管理委員会でプログラムの内容を検討し、原則として年度単位でプログラムの修正、改善を行っていく。

(6) 応募資格

令和4年度、第116回歯科医師国家試験を受験する者

[3—1]研修目標

A. 歯科医師としての基本的な価値観（プロフェッショナリズム）を身に付ける。

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与：社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。
2. 利他的な態度：患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともにQOLに配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。
3. 人間性の尊重：患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。
4. 自らを高める姿勢：自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力を身につける。

1. 医学・医療における倫理性：診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。
2. 歯科医療の質と安全の管理：患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。
3. 医学知識と問題対応能力：最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。
4. 診療技能と患者ケア：臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・移行に配慮した診察を行う。
5. コミュニケーション能力：患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。
6. チーム医療の実践：医療従事者を始め、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。
7. 社会における歯科医療の実践：医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。
8. 科学的探求：医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢：医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

C. 基本的診療業務（1）

1. 基本的診療能力等①

（1）基本的診察・検査・診断・診療計画

- ① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。
- ② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診療を実施し、診療所見を解釈する。
- ③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。
- ④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
- ⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に判断した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
- ⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。

2. 基本的診療能力等②

（2）基本的臨床技能など

- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。
- ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。
 - a. 歯の硬組織疾患
 - b. 歯髄疾患
 - c. 歯周病
 - d. 口腔外科疾患
 - e. 歯質と歯の欠損
 - f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下
- ③ 基本的な応急処置を実践する。
- ④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。
- ⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。
- ⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。

3. 基本的診療能力等③

(3) 患者管理

- ① 歯科診療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤について説明する。
- ② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。
- ③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。
- ④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。
- ⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。

(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

- ① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。
- ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。
- ③ 障害を有する患者への対応を実践する。

C. 基本的診療業務 (2)

1. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等①

(1) 歯科専門職の連携

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理などの際に連携を図る。
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。

2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等②

(2) 多職種連携、地域医療

- ① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
- ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医師の役割を説明する。
- ③ がん患者等の周術期口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。

- ④ 歯科専門職が関与する他職種チーム（他追えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。
- ⑤ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。

3. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等③

（3）地域保健

- ① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。
- ② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。
- ③ 歯科保健を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。

（4） 歯科医療提供に関連する制度の理解

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。
- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

D. 頭頸部・耳鼻咽喉科研修

- ① 口腔・咽頭の病態を把握でき、診断に必要な検査ができる。
- ② ファイバースコープによる咽頭の詳細な所見を取ることができ、病態を評価できる。
- ③ 嚥下障害の原因病態を把握できる。
- ④ 睡眠時無呼吸の原因病態を把握できる。
- ⑤ 唾液腺疾患の原因病態を把握できる。
- ⑥ 頸部リンパ節の触診、超音波検査ができる。
- ⑦ 顔面外傷において必要な検査を行い、病態を把握できる。
- ⑧ 頭頸部腫瘍などの手術において的確に助手を務めることができ、周術期管理ができる。

E. 麻酔科研修

- ① 術前の患者の全身状態を把握し、正しく評価できる。
- ② 麻酔器の基本構造を理解し、正しく始業点検できる。

- ③ モニタリングを正しく装着でき、値を評価できる。
- ④ 気道確保、気管挿管などの麻酔手技を安全にできる。
- ⑤ 麻酔で使用する薬剤の薬理作用を理解し、適切に投与できる。
- ⑥ 麻酔管理としての呼吸管理が理解できる。
- ⑦ 循環作動薬を理解し使用できる。
- ⑧ 術後の疼痛を評価し管理できる。
- ⑨ 術後早期の患者の状態を正しく評価できる。

[3-2]研修の評価

研修医氏名

研修期間 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日

研修指導医

印

(評価 A:よくできる B:できる C:もう少し努力が必要 D:できない E 実施せず)

A. 歯科医師としての基本的な価値観（プロフェッショナリズム）を身に付ける。

項目	自己評価	指導医評価	コメディカル評価
社会的使命と公衆衛生への寄与	ABCDE	ABCDE	ABCDE
利他的な態度	ABCDE	ABCDE	ABCDE
人間性の尊重	ABCDE	ABCDE	ABCDE
自らを高める姿勢	ABCDE	ABCDE	ABCDE

B. 資質・能力

項目	自己評価	指導医評価	コメディカル評価
医学・医療における倫理性	ABCDE	ABCDE	ABCDE
歯科医療の質と安全の管理	ABCDE	ABCDE	ABCDE
医学知識と問題対応能力	ABCDE	ABCDE	ABCDE
診療技能と患者ケア	ABCDE	ABCDE	ABCDE
コミュニケーション能力	ABCDE	ABCDE	ABCDE
チーム医療の実践	ABCDE	ABCDE	ABCDE
社会における歯科医療の実践	ABCDE	ABCDE	ABCDE
科学的探求	ABCDE	ABCDE	ABCDE
生涯にわたって共に学ぶ姿勢	ABCDE	ABCDE	ABCDE

C-1. 基本的診療業務：基本的診療能力等

項目	自己評価	指導医評価	コメディカル評価
基本的診察・検査・診断・治療計画	ABCDE	ABCDE	ABCDE
基本的臨床技能等	ABCDE	ABCDE	ABCDE
患者管理	ABCDE	ABCDE	ABCDE
患者の状態に応じた歯科医療の提供	ABCDE	ABCDE	ABCDE

C-2. 基本的診療業務：歯科医療に関連する連携と制度の理解など

項目	自己評価	指導医評価	コメディカル評価
歯科専門職の連携	ABCDE	ABCDE	ABCDE
多職種連携、地域医療	ABCDE	ABCDE	ABCDE
地域保健	ABCDE	ABCDE	ABCDE
歯科医療提供に関連する制度の理解	ABCDE	ABCDE	ABCDE

D. 頭頸部・耳鼻咽喉科研修：口腔・咽頭の病態を把握し、適切な検査・対応ができる

項目	自己評価	指導医評価
口腔・咽頭の病態を把握でき、診断に必要な検査ができる	ABCDE	ABCDE
ファイバースコープによる咽頭の詳細な所見を取ることができ、病態を評価できる	ABCDE	ABCDE
嚥下障害の原因病態を把握できる	ABCDE	ABCDE
睡眠時無呼吸の原因病態を把握できる	ABCDE	ABCDE
唾液腺疾患の原因病態を把握できる	ABCDE	ABCDE
頸部リンパ節の触診、超音波検査ができる	ABCDE	ABCDE
顔面外傷において必要な検査を行い、病態を把握できる	ABCDE	ABCDE
頭頸部腫瘍などの手術において的確に助手を務めることができ、周術期管理ができる	ABCDE	ABCDE

E. 麻酔科研修：実際の麻酔手技を習得するとともに、周術期の全身管理を評価できるようにする

項目	自己評価	指導医評価
術前の患者の全身状態を把握し、正しく評価できる	ABCDE	ABCDE
麻酔器の基本構造を理解し、正しく始業点検できる	ABCDE	ABCDE
モニタリングを正しく装着でき、値を評価できる	ABCDE	ABCDE
気道確保、気管挿管などの麻酔手技を安全にできる	ABCDE	ABCDE
麻酔で使用する薬剤の薬理作用を理解し、適切に投与できる	ABCDE	ABCDE
麻酔管理としての呼吸管理が理解できる	ABCDE	ABCDE
循環作動薬を理解し使用できる	ABCDE	ABCDE
術後の疼痛を評価し管理できる	ABCDE	ABCDE
術後早期の患者の状態を正しく評価できる	ABCDE	ABCDE

指導医及びコメディカルの評価でB以上が36個以上必要

1 「1年目」 基本的診療能力等を身につける。

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
C1-(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画	患者を診察室へ誘導して医療面接を行った後、全身状態を考慮して顎顔面及び口腔内の診察を行い、適切な検査を実施する。診察、検査結果に基づき診断し、一口腔単位の治療計画を立案する。インフォームドコンセントを施行する。	①～⑥一連として3症例	指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、診察を行う。	①～⑥に関するレポートを3症例作成する。	レポートは指導歯科医が評価を行い、目標達成の基準として、評価がB以上のレポート2例を提出することが必要。
①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。					
②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診療を実施し、診療所見を解釈する。					
③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。					
④病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。					
⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に判断した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。					
⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。					

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
C1－(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供 ①妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。 ②各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。 ③障害を有する患者への対応を実践する。	①、②、③に関して、実際に患者の治療に参加して、診療録を作成する。 ①、②：妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の各ライフステージに応じた口腔機能管理を行い、歯科治療を行う。 ④障害を有する患者の治療を行う。	①、②： 妊娠期1症例 乳幼児期1症例 学齢期1症例 成人期1症例 高齢期1症例 ③：1症例	指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。 また、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。	①、②に関して5症例レポートを作成する。 ③に対するレポートを1症例作成する。	レポートは指導歯科医が評価を行い、目標達成の基準として、評価がB以上のレポート4例を提出することが必要。

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
C2－(1) 歯科専門職の連携 ①歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理などの際に連携を図る。 ②歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。	歯科専門職との連携を図る。	3例 (レポート)	指導歯科医・上級歯科医がレポート作成の際にサポート等を行う。	①～③に対してそれぞれ1例ずつレポートを作成する。	レポートは指導歯科医とコメディカルが評価を行い、目標達成の基準として、評価がB以上のレポート2例を提出することが必要。

③多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。					
--	--	--	--	--	--

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
C 2－(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解	歯科医療提供に関連する制度を理解する。	2 例 (レポート)	指導歯科医・上級歯科医がレポート作成の際にサポート等を行う。	①～③に関して 2 例レポートを作成する。	レポートは指導歯科医が評価を行い、目標達成の基準として、評価が B 以上のレポート 2 例を提出することが必要。
①医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。					
②医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。					
③介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。					

2 「2年目」 歯科医療に関連する連携と制度の理解を深める。

到達目標	研修内容	必要な 症例数	研修歯科医の 指導体制	症例数の 数え方	修了判定の 評価基準
C1－(3) 患者管理 ①歯科診療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤について説明する。 ②患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。 ③全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。 ④歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。 ⑤入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。	実際に患者の治療に参加して、診療録を作成する。 ①全身疾患、服用薬剤を把握、説明する。 ③全身状態に配慮が必要な患者に対してモニタリングしながら治療を行う。 ⑤入院患者に対して手術前後の患者管理を行う。	①：1症例 ③：1症例 ⑤：1症例	指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。 また、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。	①、③、⑤に対するレポートをそれぞれ1症例ずつ作成する。 ②、④の内容を含むことが望ましい。	レポートは指導歯科医が評価を行い、目標達成の基準として、評価がB以上のレポート2例を提出することが必要。

到達目標	研修内容	必要な 症例数	研修歯科医の 指導体制	症例数の 数え方	修了判定の 評価基準
C2-(2) 多職種連携、地域医療	多職種連携の医療に参加し、地域医療について理解を深める。	4例 (レポート)	指導歯科医・上級歯科医がレポート作成の際にサポート等を行う。	①、②に関して1例、③、④、⑤それぞれに対して1例ずつレポートを作成する。	レポートは指導歯科医が評価を行い、目標達成の基準として、評価がB以上のレポート2例を提出することが必要。
①地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。					
②地域包括ケアシステムにおける歯科医師の役割を説明する。					
③がん患者等の周術期口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。					
④歯科専門職が関与する他職種チーム（他追えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。					
⑤入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。					

到達目標	研修内容	必要な 症例数	研修歯科医の 指導体制	症例数の 数え方	修了判定の 評価基準
C2－(3) 地域保健	地域保健について理解し経験する。	2例 (レポート)	指導歯科医・上級歯科医がレポート作成の際にサポート等を行う。	①、②に対して1例ずつレポートを作成する。できれば③に関して経験することが望ましい。	レポートは指導歯科医が評価を行い、目標達成の基準として、評価がB以上のレポート1例を提出することが必要。
①地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。					
②保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。					
③歯科保健を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。					

到達目標	研修内容	必要な 症例数	研修歯科医の 指導体制	症例数の 数え方	修了判定の 評価基準
D. 頭頸部・耳鼻咽喉科研修	頭頸部・耳鼻咽喉科で研修を行う。	8例 (レポート)	指導医・上級医がレポート作成の際にサポート等を行う。	①～⑧に関してレポートを作成する。	レポートは指導医が評価を行い、目標達成の基準として、評価がB以上のレポート6例を提出することが必要。
①口腔・咽頭の病態を把握でき、診断に必要な検査ができる					
②ファイバースコープによる咽頭の詳細な所見を取ることができ、病態を評価できる					
③嚥下障害の原因病態を把握できる					
④睡眠時無呼吸の原因病態を把握できる					
⑤唾液腺疾患の原因病態を把握できる					
⑥頸部リンパ節の触診、超音波検査ができる					
⑦顔面外傷において必要な検査を行い、病態を把握できる					
⑧頭頸部腫瘍などの手術において的確に助手を務めることができ、周術期管理ができる					

到達目標	研修内容	必要な 症例数	研修歯科医の 指導体制	症例数の 数え方	修了判定の 評価基準
D. 麻酔科研修	麻酔科で研修を行う。	8例 (レポート)	指導医・上級医がレポート作成の際にサポート等を行う。	①～⑨に関してレポートを作成する。	レポートは指導医が評価を行い、目標達成の基準として、評価がB以上のレポート6例を提出することが必要。
①術前の患者の全身状態を把握し、正しく評価できる					
②麻酔器の基本構造を理解し、正しく始業点検できる					
③モニタリングを正しく装着でき、値を評価できる					
④気道確保、気管挿管などの麻酔手技を安全にできる					
⑤麻酔で使用する薬剤の薬理作用を理解し、適切に投与できる					
⑥麻酔管理としての呼吸管理が理解できる					
⑦循環作動薬を理解し使用できる					
⑧術後の疼痛を評価し管理できる					
⑨術後早期の患者の状態を正しく評価できる					

[4]研修スケジュール

1年目 病院全体のオリエンテーション

歯科口腔外科外来担当

外来手術の介助

入院患者の処置

入院手術の介助

2年目 麻酔科研修（2～3ヶ月程度）

頭頸部・耳鼻咽喉科研修（2～3ヶ月程度）

歯科口腔外科外来担当

外来手術の介助

入院患者の処置

入院手術の介助

学会発表

【歯科の標準的なスケジュール】

曜日	午 前	午 後
月	外来診療	外来診療・病棟回診
火	外来診療	外来診療・病棟回診・症例検討会
水	外来診療	外来診療・病棟回診
木	手術室での手術	手術室での手術・術後回診
金	外来診療	外来診療・病棟回診
土	回診（自主的な見学可）	—
日	回診（自主的な見学可）	—

[5]研修歯科医の処遇（身分、給与、勤務時間、休暇、住居など）

（身 分） 常勤

（給 与 等） 1・2年次 月額報酬 320,000円

賞与 夏450,000円, 冬450,000円

時間外手当、休日手当

（勤務時間） 原則として8：30～17：00 当直なし

（休 暇） 休日：土・日、祝祭日、創立記念日（5月1日）

年末年始（12月29日～1月3日）

有給休暇：年間24日（うち3日は夏休み）

特別有給休暇

（宿 舎） なし

（施設内の席） 有り（研修歯科医室）

（社会保険等） 協会けんぽ、厚生年金

（健康管理） 健康診断（年2回）

（賠償責任保険） 病院において加入

（研修活動） 学会への参加可、参加費用支給有り

（指導体制） プログラム管理者のもとに指導歯科医を配置し、
研修歯科医の指導及び到達目標達成を援助する。

I D	氏名	年齢・性別
診断	処置・手術	
到達目標		
内容		
考察		
指導歯科医評価		

到達目標
内容
考察
指導歯科医評価